

地 球 温 暖 化 対 策 計 画 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	医療法人 生生会 松蔭病院
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中川区打出2-70
工場等の名称	医療法人 生生会 松蔭病院
工場等の所在地	名古屋市中川区打出2-70
業 種	医療、福祉
業務部門における 建築物の主たる用途	病院・医療関連施設
建築物の所有形態	自社ビル等(自ら所有し自ら使用している建築物)
事業の概要	病院
計 画 期 間	令和3年4月1日 ~ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公 表 期 間	令和4年10月15日 ~ 令和6年3月31日		
公 表 方 法	○	掲 示 閲 覧	(場 所) 受付 待合室
		ホ ム ペ ー ジ	(HPアドレス)
		冊 子	(冊子名・ 入手方法)
		そ の 他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-352-3251 070-6674-4070		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

当病院施設においては、地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識とする、また医療活動を通じて環境改善保持に努め社会貢献致します。

1. 省エネルギー活動の推進

ユニフォーム支給により職員への意識改革を高める。

2. 環境配慮型の公用車変換

公用車として使用している病院車両の一部をHV車両に移行していく。

3. 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進。

分別の推進と、発生抑制に努める。

4. 職員教育

新人教育研修の一貫として、環境保持の重要性を取り入れ、意識改革を行っていく。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

推進委員会（医事部長、医事係長、看護部長）

↓

全職員

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和2年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,937	t-CO ₂
①を （温室効果ガス 換算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		1,937	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和2年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和5年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	1,937	t-CO ₂	1,918	t-CO ₂	1.0

項目	基準年度 令和2年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和5年度 目標削減率	
	原単位あたりの 排出量		CO ₂		CO ₂	

(2) 目標設定の考え方

温暖化により、当院の空調設備の運転時間延長による排出量の削減率を低く設定しました。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー実践 冷暖房（空調）	冷暖房の温度設定（冷房 28℃ 暖房 19℃）	タイマー装置を用いた時間制御
省エネルギー実践 照明	使用していない部屋等、時間外の消灯の徹底	全館の電球をLED電球に取り換えていく
省エネルギー実践 OA機器・エレベーター	OA機器・コピー機、PCプリンターは自動節電モードにて使用する。 エレベーター 職員の使用制限（時間帯や段階の利用の強化）	
廃棄物の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー機は裏紙使用の徹底 ・古紙の分別 ・リサイクルの推進 ・不燃物の排出量の抑制 	

指針第1号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--